新型コロナ COVID-19

世界の主な国・地域の感染者数と死者数

20日午後5時現在。感染者の多い15カ国と日本と往来の多い10の国・地域。米ジョンズ・ホプキンス大の集計から

	感染者		死者
世界計	1450万8892		60万6206
	前日比（+21万6887）		前日比（+4049）
米国	377万3260	（+6万1796）	14万0534
ブラジル	209万8389	（+2万3529）	7万9488
インド	111万8206	（+4万0425）	2万7497
ロシア	77万0311	（+6096）	1万2323
南アフリカ	36万4328	（+1万3449）	5033
ペルー	35万3590	（+4090）	1万3187
メキシコ	34万4224	（+5311）	3万9184
チリ	33万0930	（+2084）	8503
英国	29万6358	（+726）	4万5385
イラン	27万3788	（+2182）	1万4188
パキスタン	26万5083	（+1587）	5599
スペイン	26万0255	（+0）	2万8420
サウジアラビア	25万0920	（+2504）	2486
イタリア	24万4434	（+218）	3万5045
トルコ	21万9641	（+924）	5491
インドネシア	8万6521	（+1639）	4143
中国	8万5314	（+0）	4644
フィリピン	6万7456	（+2152）	1831
シンガポール	4万7912	（+257）	27
韓国	1万3771	（+26）	296
豪州	1万2069	（+267）	123
マレーシア	8779	（+15）	123
タイ	3250	（+1）	58
台湾	451	（+0）	7
ベトナム	383	（+1）	0

厚生労働省フリーダイヤル
感染症・健康相談
0120-565653　午前9時～午後9時

◆連合
なんでも労働相談ホットライン（0120・154・052）、午前9時～午後5時（平日、時間は地域による）▽発信地近くの連合（地方連合会）につながる。

新しい「おくり方」定着するか

葬儀の簡素化拡大 映像配信も

新型コロナウイルスの影響で、弔いの場が変わりつつある。集い、故人の思い出を語らうことが制約を受け、葬儀を簡素にしたり、参列者を絞ったり。式のオンライン配信に取り組む葬儀会社や寺院もある。どんな「おくり方」がこれから定着していくのだろうか。

読経から出棺まで式の様子が約1時間映し出され、最後のお別れでは故人のそばにカメラが置かれて顔を拝む。名古屋市で5月上旬に営まれた父の葬儀に、50代の娘はオーストラリアの自宅からネットで「参列」した。感染拡大の影響で、渡航できなかったためだ。

親族と同じ空間で悲しみをともにできなかったが、「父がこの世に生を受けたことを自分のペースで振り返られた。感謝の気持ちでいっぱいです」と話す。

式にかかわった西田葬儀社（名古屋市）の西田祐規専務（43）は「感染第2波、第3波が心配され、遠くへの移動をためらう人も多い。今後広がるだろう」とみる。4月上旬に始め、すでに11件利用があった。

葬儀は重症化リスクの高い高齢者が密集しがちな場。静まり返った厳かな空間は密閉となりやすく、通夜振る舞いなどで思い出を対面で密接に語ることも多い。3月には松山市の葬儀で集団感染もあった。「3密」を避けるため、業界団体は指針を設けている。

葬儀が中継され、パソコンやスマホの画面越しに死を悼む。以前ならば「非常識」とも思われるサービスだ。儀式のオンライン化に抵抗感を抱く人も多いが、感染拡大後は取り組む業者が少しずつ増えている。

大分・熊本県境に位置する金剛宝寺の井上仁勝住職（42）は「葬儀の根源の目的は、参列者の苦しみや悲しみを軽くすること。それを達成できるかどうかが大切だ」と話す。「原則的に現地へ来てほしいが、遠くて参列できない人もいる。オンラインはその際の選択肢の一つになる」という。

阿蘇の山並みに建立された寺は、樹木葬のできる割安な永代供養墓も備える。「墓の様子が気になり、動画で送ってほしい」との声が全国の利用者からあり、2017年に墓参りや法事の映像配信を開始。感染拡大後の4月、葬儀も対象に加えた。学生時代はITを勉強してゲーム会社への就職もめざした井上住職。今は父の寺を継いだが時代の変化に合わせて葬儀の方法を変えるのは自然とみる。

オンライン化以上に広がるのは、葬儀の簡素化だ。

葬儀情報のサイトなどを運営する鎌倉新書（東京都）によると、感染リスクを抑えるために参列者を絞る動きが広がっている。家族・親族が中心の家族葬や火葬のみの直葬を選ぶ流れは以前にもあった。その希望者がさらに増加。葬儀の平均費用（飲食・返礼品を除く）は今年2月の調査で約120万円。直近は3割ほど少ない傾向という。

スタイルが多様化する一方で、同社の19年の調査では葬儀を執り行った人の6～7割は準備や当日の進行で何らかの後悔を感じたという。新型コロナの影響があるとはいえ、最後の場で身近な人や親しい人の後悔を招くことは避けたい。

小林史生・鎌倉新書社長（46）は「葬儀を小規模にする一方で、（親族や友人が）カジュアルなお別れ会を後日開く動きが広がる」とみる。悲しみを癒やし、遺族の気持ちを前向きに切り替えるグリーフケアの場だ。故人の好物料理を食べた後に思い出の地を巡ったり、スポーツバーに集って故人への思いをサッカーのユニホームに寄せ書きしたり。そんな場も設けられた。

相続手続き 延長の申請も可

慌ただしい葬儀の後、遺族が直面するのが遺産相続の手続きだ。遺言があればそれに基づいて、なければ相続人の間で遺産分割協議を進めて、誰がどれだけ財産を受け継ぐかを決める。

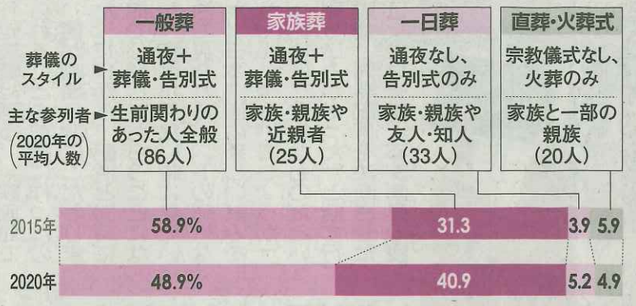
受け継ぐのは、預貯金などプラスの財産と借金などマイナスの財産。すべて相続する単純承認が一般的だが、一切引き継がない相続放棄や、プラスの財産の範囲内でマイナスの財産を継ぐ限定承認もある。相続放棄と限定承認は、相続の開始を知ってから3カ月以内に手続きする。期限を過ぎれば、単純承認となる。

感染拡大の影響で十分な検討や協議をできない際、この期限を延ばせる。裁判所に理由とともに申請し、認められることが必要だ。

相続税申告の期限は10カ月以内。ただ、外出を控えているなど申告が間に合わない「やむを得ない理由」があれば、延長を申請できる。その理由が消滅した日から2カ月以内に支払う。

協議の際は同じ場に集まる必要はない。電話やメールで進め、結果をまとめた書面を郵送し、各相続人が署名できる。相続に詳しい鈴木敏弘司法書士は「郵送で対応する人も増えるだろう。協議をとりまとめる人を早めに選んでおくのが重要」と話す。（籏谷真司）

【感染が本格化する前】　広がる葬儀簡素化の流れ



直近2年半以内に葬儀を経験した40歳以上の約2千人が回答。2020年は2月に調査。鎌倉新書「お葬式に関する全国調査」から

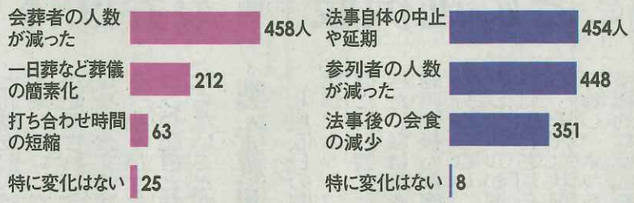
【感染拡大後】　3密回避が課題に

葬儀での対策

- 打ち合わせは少人数、対面回避も
- 体調の優れない人は参列を控える
- ある程度の人数限定を遺族へ提案
- 参列者は手指消毒とマスク着用を
- 座席や焼香時は1～2㍍の間隔を

全日本葬祭業協同組合連合会・全日本冠婚葬祭互助協会「葬祭業新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン第1版」から

葬儀　新型コロナによる葬儀・法事の変化　法事



5月に寺院の住職らを対象に実施し、517人が回答（複数回答）。大正大学地域構想研究所・BSR推進センター「寺院における新型コロナウイルスによる影響とその対応に関する調査」から

Q 夏休みの旅行や帰省 注意する点は

A 1週間前から発熱のチェックを

Q 夏休みに旅行や帰省をするか迷っています。いでしょうか。動するとき、注意

国際医療福祉
松